

米国の大学による開発途上国に対する国際協力を推進する機関
HED(Higher Education for Development)が年次会議を開催

報告 JSPS ワシントン研究連絡センター

- 2006年8月9日から11日までの日程で、HED(Higher Education for Development(※))主催により第8回年次会議「Synergy in Development(開発における協働)」がワシントンDCにおいて開催された。

この年次会議は、HEDの主たる事業である、米国大学が開発途上国における大学等と連携しながら実施する国際協力活動に対するグラント交付事業で採択された課題(“Partnership”と呼ばれる)の実施上の問題点・成果等について幅広く意見・情報交換等し、米国大学による開発途上国に対する国際協力を一層効果的に推進するという趣旨で、毎年開催されているものである。

今回は、「Transforming Lives and Institutions through Partnership(パートナーシップを通じた生活・組織の改善)」というテーマで開催され、Partnership に従事する米国及び開発途上国の大学等のほか、USAID(United States Agency for International Development(我が国のJICAに相当))等ドナー機関、大使館、シンクタンク、民間教育機関等から200名以上の参加があった。

- 会議のほとんどのセッションは、Partnership を実施する米国大学と、連携する途上国側大学等がペアとなり、自らが推進する Partnership 実施上の成果や課題等について発表し、それに基づき聴衆との間で意見交換等するという形式で運営された。

開発途上国の学生を米国に招致して大学院教育を修了させるプログラムや、途上国における大学院の教育機能強化プログラム等、HEDが重視している、人材や組織のキャパシティ・ビルディングに関する取り組みが数多く見られ興味深かった。

また、HEDが来年早々の実施を検討している Partnership の評価に関する Workshop セッションも実施された。HEDの Partnership は、HEDの前身であるALO設立後間もない1998年から開始されたが、これまで体系的な評価は実施してきておらず、今回が初めての取り組みとなる。これについてHEDは、Partnership の原資がUS AID予算、さらには米国民の税金からなることから、今後の活動に対する更なる広い支持を得るために不可欠であると考えているほか、評価結果を高等教育コミュニティに広く還元し、高等教育の改善に資することを念頭に検討している。

- HEDの活動は、国際協りに積極的に取り組む一部の我が国大学関係者からは既に認知されている。例えば2004年10月には、広島大学とHED(当時の機関名称はALO)の共催により、国際交流基金日米センター・USAIDの協力のもと、国際教育協力における日米の大学の役割の在り方について検討することを趣旨とした「Japan-United States Dialogue Seminar」が開催されたが、これは我が国大学とHED、更には日米大学間の国際協力に関する連携・協力の取り組み例として捉えることができる。

しかし、我が国大学の国際活動、特に国際協力活動の戦略的展開を考えるにあたり、HEDあるいは、HEDの Partnership を実施する大学等との連携・協力について、より多くの大学が考慮する余地があるものと考えられる。

因みに、HEDの Partnership は、ア krediteーション団体から認証を受けた米国大学のみが申請資格を有す

るが、申請する米国大学との調整を経て、Partnership に我が国大学が参画する形態を作りあげれば、様々な機関が協調した効果的な国際協力につながるものとする。

因みに会場には、様々な大学から多くの参加者があったが、個別に話をしてみると、既に我が国大学との間で学術協力関係を有している参加者も多く、このような関係を発展させて本分野における日米大学の連携・協力の可能性を探ることは、それほど困難ではないものと感じられた。

※ HED(Higher Education for Development)

HEDは、1992年に American Council on Education 等、高等教育関係6機関の共同で創設された(当時の機関名称はALO(Association Liaison Office for University Cooperation in Development))。

高等教育による組織・人材のキャパシティ・ビルディングを通じた途上国の社会・経済開発促進を目的に、高等教育6機関・USAID・その他ドナー機関等との連携促進を図ることが主な使命である。

Partnership と呼ばれるグラントを、開発途上国における大学等と連携して国際協力を展開しようとする米国大学に、ピアレビュー方式で交付する事業が主たる活動である(1998年から本事業を開始)。因みに、グラント原資はUSAID予算である。従って、Partnership の採択課題に関しては、USAIDの政策方針との整合性も当然に求められる。

○ 参考

- － [年次会議議事次第](#)
- － HEDホームページ

<http://www.aascu.org/alo/>